

青年技術士交流委員会 新合格者& U-35(若手世代)対象 研修会・ワークショップ 「技術士・技術者がキラキラ輝くための選択」 ～「輝かしい将来とは何か」について、考えてみませんか？～

下記内容にて、「令和6年度技術士第1次試験・第2次試験合格者& U-35(若手世代)対象ワークショップ」が対面にて開催されました。

◆開催日時：令和6年6月8日(土)

14:00～16:00

◆開催内容：「クロスロードゲーム」による
グループワーク

◆開催方法：対面(札幌市内・貸しイベントスペース)

◆対象者：令和5年度 技術士第1次試験・
第2次試験合格者、U-35(若手世代)

◆参加者：会員・準会員／9名、会友／2名、
一般／3名、合計14名
以下に実施内容をご報告いたします。

1. はじめに

「我々技術者にとって、輝かしい将来とは何をさすのでしょうか？」リーフレットに記載されていた一文です。

技術者の輝かしい将来とは「仕事」だけを指しているのか？プライベートも充実していないと輝かしいとは言えないのではないかな？この一文を読み、そんなことを考えました。私自身、技術者としてこのような答えのない禅問答を一人でやっていることが多い状況です。

人生において選択が多い時期、技術者として輝いていくためにはどのようなことを選択すべきなのでしょうかな？そんな小難しいことを人と話し合う機会はあまりないと思いますが、今回はそのようなことについて近い世代の方とディスカッションできる良い機会と考えて参加させていただきました。

2. クロスロードゲームとは？

ワークショップでは、阪神・淡路大震災をきっかけに防災教育のツールとして開発された「クロスロードゲーム」を活用したグループワークが実施されました。このゲームは1グループが奇数人数になるよう編成し、出題された設問ごとに各自が“YES”または“NO”のカードを提示し、その理由を説明します。提示したカードが多数派の意見だった場合、勝者として「座布団」を獲得でき、その枚数を競い合います。なお、少数意見も貴重であるという観点から、グループ内で唯一の回答となった場合は、その回答者だけが「金座布団(座布団3枚分に相当)」を獲得できるルールになっています。

3. 率直な意見をしやすい雰囲気づくり

2グループに分かれて最初に行った自己紹介では、所属や氏名のほかに、SNSで用いる「#(ハッシュタグ)」で自分の特徴を共有しました。ただ趣味などについて話すだけでなく#(ハッシュタグ)という表現を使うのが新鮮でした。私のグループは年代が近い方が多かったため、話が合うなと感じました。

本編のクロスロードゲームにおいては、「“YES”、“No”を選択した理由を述べる」「『〇〇と同意見です』は厳禁」「相手の意見は絶対に否定しない」「人の意見に耳を傾ける」等がルールとして設けられていました。また、今回の会で話した内容についてはこの場限りとしましょう、という取り決めがあったため、より素直な意見がしやすかったです(写真-1)。



写真-1 意見交換の様子

4. 人生における答えのない天秤、自分に置き換えて考える

クロスロードゲームの各設問は、なかなか悩ましい問題や、現実でその立場になったら「うまく調整して」と思うものなどがありました。例えば「既婚男性の技術者が、技術士二次試験を受けるタイミングで第一子が生まれる予定、試験を受けるか・受けないか」という仕事と子育てを天秤にかけるとどちらが正しいとはいえない難しい問題。「外せない仕事がある日に、プライベートの旅行の予定が被り、仕事をとるか・プライベートをとるか」という仕事とプライベートを天秤にかけると現実でもよく起こりうる問題。「検収直前に軽微な不適合を発見し、素直に報告するか否か」という技術者としての在り方を問われる問題。多種多様な問題があり、とても考えさせられました。

個人的には、イベントの最後に行ったオリジナル設問作成の時間が一番面白かったです(写真-2)。設問作成する際は、どのような条件を加えたらより迷う選択肢になるかを熟考しました。

津田班からは「円満退職した会社へ出戻り社員として再就職するか・否か」、長内班からは「高校生の就職先で大手企業か・ベンチャー企業か」という設問が出来上がりました。

すべての設問が終了したところで、座布団の枚数が同じになった、2名でじゃんけんをし、私がみごと優勝を果たしました。私自身、転職や起業など様々な経験をしていたことが活かされ、多数派/少

数派の波にうまく乗れたのかなと思っています。

ただ設問として考えるだけでなく、自分の過去と重ねたり、未来の自分を想像したりして、考えるのがよい経験となりました。



写真-2 クロスロードゲームのYES/NOカード



写真-3 結果発表及び優勝者表彰

5. おわりに

私は技術士になるための第一歩として一次試験に合格し、修習技術者になったばかりという身です。ですが、そんな立場は関係なく、青技交メンバーの方々、若手世代の方々と意見交流ができ、大変充実した時間を過ごすことができました。また、その時間は今後の勉強の励みにもなりました。

技術士として同じ方向を向いている仲間たちがここにいる、そんな方々と交流できる場があるという事実は、一技術者として大変心強く感じました。

人生のクロスロードゲームではないですが、日々ぶつかる問題に技術者としてどうあるべきか考え、成長していきたいと思います。